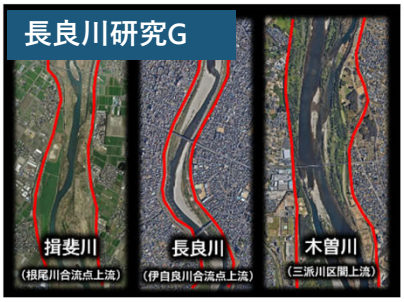
CPD認定プログラム JSCE26-1289　5.0単位（会場）／ JSCE26-1290　3.5単位（WEB）









第28回 河川生態学術研究発表会

CPD認定
5.0単位（会場）
3.5単位（WEB）

参加無料

令和8年11月6日（金）
10：30～17：15

ハイブリッド形式にて開催予定
・会 場【東京証券会館 8階】：定員300名
・WEB　：定員500名

※土木学会以外の団体に提出する場合の方法等は提出先団体に事前にご確認ください。他団体が運営するCPD制度に関する内容については回答いたし兼ねます

※WEB参加の場合、ポスターセッションは参加できません。

河川生態学術研究会は、生態学と河川工学の研究者が共同し、河川における生態系の解明とその上に立った河川管理について研究、議論するとともに、次世代を担う研究者を育成することを目的としています。

現在、個別の河川を研究フィールドとした５つの河川別研究グループ（十勝川、吉野川他、富士川、長良川、千曲川・信濃川）、若手を主体とした横断的なテーマで研究を進める総合研究グループ（生態系ネットワークチーム）が活動しています。

この度、応用生態工学会との共催により、５つの河川別研究グループのうち4グループが研究成果を発表し、河川生態の最新の知見を共有するとともに、幅広い意見交換を行う場として研究発表会を開催いたします。

この研究発表会が、河川生態の研究およびその活用の充実、発展の機会となるよう、研究者、現場技術者、NPOなど、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。



●東京メトロ 東西線･日比谷線
茅場町駅 8番出口直結

プログラム

（敬称略）

10:30	**開会挨拶**	河川生態学術研究会委員会 運営委員長 萱場 祐一
10:35	**ポスターセッション（裏面参照）**	
12:05～13:05	**昼　食**	
13:05	**開会挨拶（午後の部）**	河川生態学術研究会委員会 委員長 中村 太士
13:10	**研究グループの研究発表（口頭発表）** ・研究発表《富士川研究G 代表 大槻 順朗》　・研究発表《千曲川・信濃川研究G 代表 箱山 洋》	
14:00	**総合討議**　コーディネーター：長良川研究G代表 萱場 祐一　パネリスト：長良川研究グループ	
15:05	**話題セッション：自然に近い流量変動・土砂流送と地形形成** ＜コーディネーター＞竹門 康弘（大阪公立大学客員研究員） ＜パネリスト＞小林草平（京都大学防災研究所准教授）、知花武佳（政策研究大学院大学教授）、原田守啓（岐阜大学教授）、三宅洋（愛媛大学教授）	
17:05	**閉会挨拶**	応用生態工学会 国土交通省　水管理・国土保全局　河川環境課
17:15	**閉会**	

主催　河川生態学術研究会
(公財)リバーフロント研究所

共催　応用生態工学会

研究グループの研究発表

（敬称略）

10：35～12：05　ポスターセッション	
吉野川他研究グループ　／　代表　鎌田 磨人	コアタイム　10:35～11:35
・徳島県吉野川流域の流域治水における農地の活用と生物多様性保全に関する環境防災学研究	鎌田 磨人
・吉野川下流域における地形ー氾濫形態ー魚類群集の空間的対応	鬼久保 浩正・今井 洋太・武藤 裕則・鎌田 磨人
・洪水と特産品の関係性に見る洪水常襲地域における農業のあり方	真田 純子
・氾濫原に住まうものは誰か：他種の視点からみた景観史の評価方法	内藤 直樹
富士川研究グループ　／　代表　大槻 順朗	コアタイム　10:35～11:35
・多様な扇状地河川を有する富士川流域における治水と環境を両立する流域治水策の検討に向けた研究	大槻 順朗
・笛吹川下流部における霞堤開口部と樋門排水部における水生動物群集の比較	田和 康太
・富士川流域の扇状地河川における植生繁茂特性と河道管理への示唆 ― 河川特性の違いに着目した解析 ―	指村 奈穂子
・富士川水系支流における底生動物の群集構造と流域環境の関係 ― 地質・土地利用の違いに着目して ―	八重樫 咲子
千曲川・信濃川研究グループ　／　代表　箱山 洋	コアタイム　10:35～11:35
・河川における生息地連続性の重要性 ― 河川生態系への影響評価および保全方策―	箱山 洋
・環境DNA種特異的解析を用いたブラウントラウトの分布拡大を阻止する河川横断構造物の条件推定	龍野 紘明・川之辺 素一
・河川環境管理シートを活用した千曲川・信濃川水系の魚類相の解析と分布予測	児玉 建・箱山 洋
長良川研究グループ　／　代表　萱場 祐一	コアタイム　11:05～12:05
・気候変動と流域治水シナリオに基づく生物多様性評価とハビタット管理手法の提案	萱場 祐一
・群落クラスタを用いた河川陸域環境の評価	萱場 祐一
・水理指標に基づく河道内環境の類型化～河道の動的環境評価に向けて～	戸田 祐嗣
・水域・陸域を統合した河川ハビタットの中長期動態評価・予測フレームワークの構築	周 月霞
・礫床河川における表層材料粒径の空間分布推定法	溝口 裕太
・石礫床河川における河床掘削が瀬淵構造と河床環境に及ぼす影響	原田 守啓
・砂州の地形と生息場機能～アユの高水温避難場とコアジサシ営巣の観点から～	永山 滋也
・景観と生物から捉える長良川流域の環境	森 照貴
・谷戸の水田および放棄水田の植生とその保全について	片桐 浩司
・長良川支川における沈水植物の分布特性	内田 圭
・谷戸の存在とその耕作放棄が地域のカエル相に及ぼす影響について	市岡 幸雄
13：10～14：00　研究グループの研究発表（口頭発表）	
富士川研究グループ　／　代表　大槻 順朗	13:10～13:35
・多様な扇状地河川を有する富士川流域における治水と環境を両立する流域治水策の検討に向けた研究	大槻 順朗
千曲川・信濃川研究グループ　／　代表　箱山 洋	13:35～14:00
・河川における生息地連続性の重要性 ― 河川生態系への影響評価および保全方策―	箱山 洋

参加申し込み

下記URLまたはQRコードにより、お申込み下さい。

●WEB参加（ZOOM）
https://e-ve.event-form.jp/event/144099/28th_kasenseitai_Web

●会場参加
https://e-ve.event-form.jp/event/144060/28th_kasenseitai_kaijyou

WEB参加

会場参加

※上記フォームでお申込できない場合は事務局宛にメールでお問い合わせ下さい。

河川生態学術研究会の詳細は
こちらをご覧ください。
「河川生態学術研究会パンフレット第21版」
https://www.rfc.or.jp/seitai/seitai_pamph_21.pdf

申込締切 11/2迄
※定員に達した時点で申し込みを締め切ります。

お問い合わせ　河川生態学術研究会事務局（公益財団法人リバーフロント研究所内）担当：兒玉・内藤（太）
電　話：03-6228-3861、メール：rfc-event@rfc.or.jp